



OncoTherapy
Science, Inc.

第8期 事業報告書

平成20年4月1日 ▶ 平成21年3月31日

(証券コード 4564)

【 Profile 】

当社は、癌関連遺伝子等の網羅的解析の研究成果をもとに、癌関連遺伝子及びその遺伝子産物に関する情報や医薬候補物質等（抗体、癌ペプチドワクチン、低分子医薬、核酸医薬等）を、製薬企業及び診断薬開発企業等に対して提供することを主な事業としております。一日も早く、副作用が少なく、かつ効果の高い、抗癌剤・診断薬を世に送り出すべく、全役員・従業員一同、全力を尽くす所存でございます。



OncoTherapyScience, Inc.

【 社名の由来 】

当社のロゴマークは、櫟（イチイ）の木の実を表しております。櫟は、アイヌ語で「オンコ」と言い、「神の木」を意味しております。

また、ラテン語で「オンコ」とは腫瘍（癌）を意味しており、当社の名前「OncoTherapy Science」は、科学的アプローチによるエビデンスに基づいた癌治療の意味を込めて命名しております。

当社は厳しい環境の中でしっかりと根を張り、神の木として成長し続けるオンコの木のように、敢然と癌に立ち向かうバイオベンチャーであり続けたいと願っております。

【 目次 】

ごあいさつ	P1
事業展開の概況（平成20年4月～平成21年3月）	P2
■ OTSの研究・開発プロジェクト	P3
経営成績の推移（平成20年4月～平成21年3月）	P6
会社概要／経営体制	P8
株式の状況	P9

■ごあいさつ



株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
また、平素より当社に対し格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、第8期の事業報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。



当社は、「より副作用の少ない癌治療薬・治療法を一日も早く癌に苦しむ患者さんに届けること、癌との闘いに勝つこと」を企業使命として掲げ、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長中村祐輔教授と共同でほぼ全ての癌を対象にした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、既に多くの癌治療薬開発に適した標的タンパクを同定しております。現在、これらの標的タンパクに対し癌ワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬等のより製品に近い創薬研究を積極的に実施しているほか、新生血管阻害剤OTS102をはじめとした複数のペプチドワクチンの臨床開発を進めております。



今後においても、治療効果が高く、副作用の少ない癌治療薬・治療法を一日も早く世に送り出すことで社会に貢献するとともに、当社の企業価値を高めて株主の皆様のご期待にお応えできるよう、役員・社員が一丸となって全力で事業を推進してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますよう心からお願い申し上げます。

平成21年6月



代表取締役社長 富田 憲介

■事業展開の概況

◎ 当連結会計年度における事業の概況

当連結会計年度におけるわが国経済は、世界的な金融危機の影響を受けた実体経済の悪化から企業収益が低迷しております。

医薬品業界においては、後発品の一層の使用促進等により新薬メーカーにおいては生き残りをかけた新薬開発競争が激しさを増し、また国内外の製薬企業間では、提携・合併・再編が進行しております。

当社グループにおいては、東京大学医科学研究所との共同研究成果である癌関連遺伝子の情報を基に、低分子医薬、抗体医薬、ワクチン、核酸医薬等の医薬品の用途毎に、創薬研究として医薬品候補物質の同定及び最適化を積極的に展開しているほか、新生血管阻害剤OTS102をはじめとした複数のペプチドワクチンの開発を実施しております。

当連結会計年度における事業収益につきましては、提携先製薬企業からの契約一時金、マイルストーンならびに開発協力金を受領し、連結事業収益は3,327百万円（前期比1,354百万円の増加）となりました。

一方、医薬品候補物質等の基礎研究、創薬研究及び臨床開発の継続的な推進により、連結経常利益は119百万円（前期は、314百万円の損失）、連結当期純利益は148百万円（前期は、202百万円の損失）となりました。

◎ OTSグループの事業領域

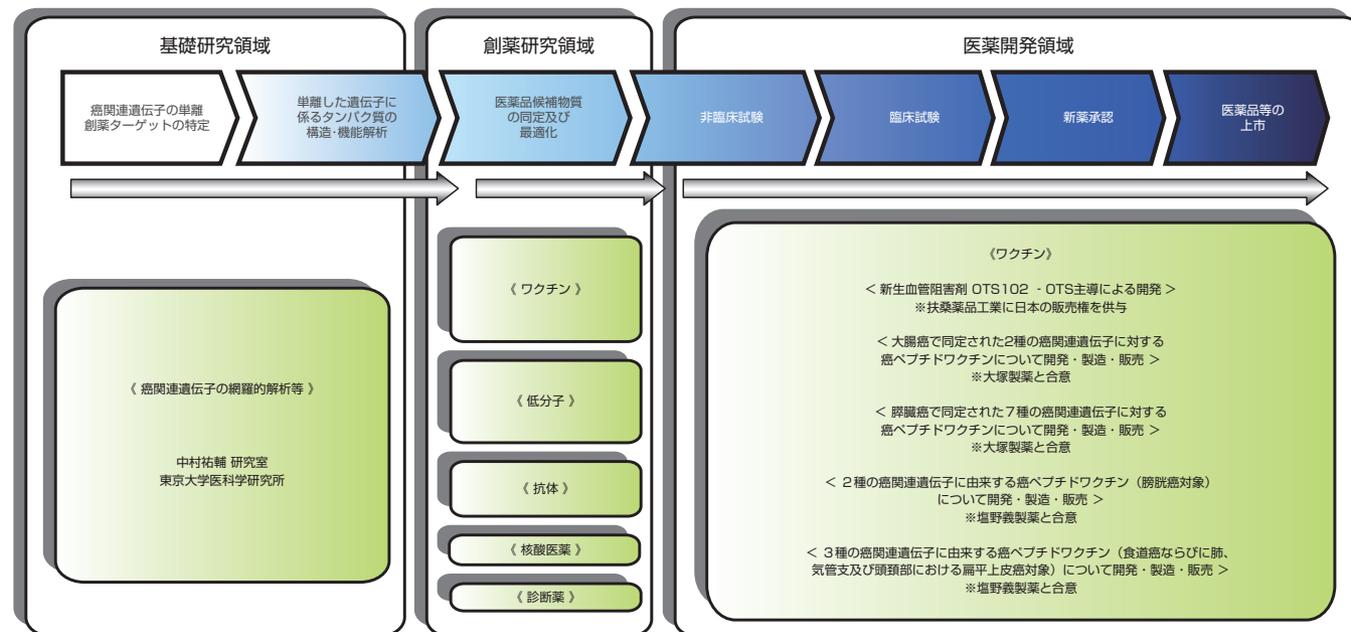
当社の研究開発は、平成13年4月からの東京大学医科学研究所との共同研究により出発致しました。当該研究は、各癌種において特異的に発現する遺伝子を網羅的に解析することにより、創薬ターゲットとなる癌関連遺伝子及び遺伝子産物を単離することを目的としており、主に基礎研究領域に重点を置いたものとなっております。

その後、基礎研究の継続的な実施による進展とともに、当社グループの事業領域は、より医薬品の開発に近い、創薬研究へと拡大しております。癌ワクチンにつきましては、新規ペプチドワクチンの探索を進め、低分子医薬につきましては、特異的阻害剤獲得のため、大規模化合物ライブラリーのスクリーニングによるヒット化合物探索を進め、その後構造活性相関研究による新規化合物合成を進めております。そこで得られた高活性リード化合物につきましては、薬物動態特性も考慮したリード最適化を進め、in vivoでの薬効試験を開始しております。

医薬品の開発につきましては、平成21年1月に新生血管阻害剤OTS102の第Ⅱ／Ⅲ相臨床試験の患者への投与を開始したほか、複数のペプチドワクチンが臨床試験開始に向けて非臨床試験を実施中、または準備中となっております。

このほか臨床応用を目指した抗体医薬、核酸医薬の創薬研究を当社研究開発本部において実施しております。

◇ 当社グループの事業領域



◎ OTSの研究・開発プロジェクト

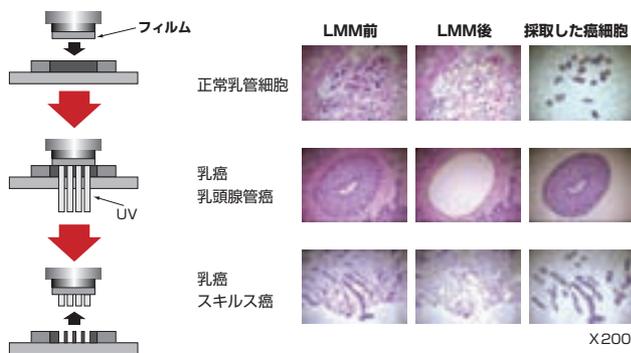
● OTSの基盤技術

抗癌剤開発のための分子標的となる遺伝子同定を可能にする基盤技術は、癌組織から癌細胞だけを高純度に単離するLaser Microbeam Microdissection(LMM)、及びcDNAマイクロアレイによる網羅的な全遺伝子発現情報解析技術、及び遺伝子機能解析技術であります。

■ LMM (Laser Microbeam Microdissection)

癌組織には癌細胞だけでなく、間質細胞や正常細胞などの非腫瘍細胞が多く混在しています。このような組織をそのまま試料として遺伝子発現解析を行っても、正確な癌細胞の遺伝子発現情報を得ることは不可能です。我々はLMMを用いて癌組織から癌細胞だけをほぼ100%の純度で回収し、採取した癌細胞を試料とし、癌細胞特異的な遺伝子発現解析を行っています。

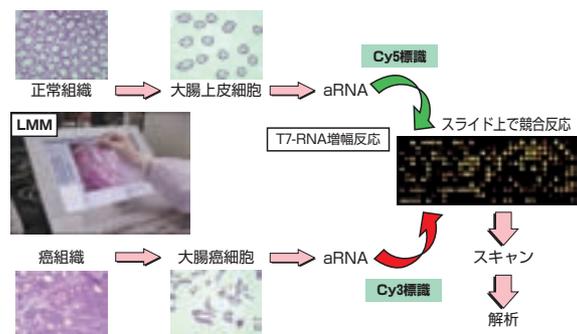
LMM (Laser Microbeam Microdissection)



■ cDNAマイクロアレイ

我々は、感度と特異性が高く、ヒトのほぼ全遺伝子の遺伝子発現を一度に解析できる、cDNAマイクロアレイシステムを構築しました。スポットするターゲット遺伝子の作製には、cDNAの3'側の繰り返し配列を含まない約200-1000塩基の配列を、遺伝子特異配列を持つプライマーを用いてPCRで増幅しました。これらのPCR産物を、特殊なスライドガラス上に高密度にスポットすることにより、遺伝子特異的で感度が高いシグナルが得られるように種々の工夫を行いました。このcDNAマイクロアレイシステムとLMMを組み合わせることにより、精度・信頼性共に非常に高い遺伝子発現解析を実現しました。

cDNAマイクロアレイによる網羅的遺伝子発現解析



■ 分子標的候補遺伝子

cDNAマイクロアレイとLMMを用いた遺伝子発現解析により、癌で高発現し、正常臓器のうち生命維持に重要な臓器での発現が極めて低い遺伝子群を同定しました。これらの遺伝子の中には、癌になった結果発現が高くなっているような遺伝子と、その発現が高いことが癌化に有利に働いている遺伝子の、2種類の遺伝子が混在しています。そこで、遺伝子発現情報で選ばれた候補遺伝子について、その働きが癌細胞の増殖や生存に重要な役割を演じているかどうか、RNA干渉という技術を用いて解析を行っています。

すなわち、RNA干渉での遺伝子機能阻害実験により、その働きを特異的に阻害すると癌細胞の増殖が阻害される、あるいは細胞が死ぬような遺伝子を創薬研究の対象としています。つまり

- ・ 癌細胞で高発現している
- ・ 正常臓器での発現は極めて低い
- ・ 癌の増殖または生存に必須である

という、3つの基準を満たす分子を、OTSの基盤技術により絞り込むことにより、初めて分子標的治療薬開発のための標的遺伝子が同定できることとなります。

分子標的遺伝子の単離におけるOTS基盤技術

1. 臨床サンプルを用いた遺伝子発現解析
 - ・ 20-80症例／癌種毎
2. 癌特異的発現亢進遺伝子の単離
 - ・ Laser Microbeam Microdissection (LMM) システム
癌組織から癌細胞だけを選択的に回収
 - ・ cDNA マイクロアレイシステム
ヒト全遺伝子の発現を網羅的に解析可能
3. 癌遺伝子としての特定
 - ・ RNAiによる機能阻害検討
 - ・ 遺伝子機能解析研究
4. 正常臓器における発現確認
 - ・ 生命の維持に重要な臓器で発現が無いが極めて低い
 - ・ 副作用の回避が期待される

■ 当連結会計年度における研究開発の状況

当社グループは、東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター長村祐輔教授と共同で、ほぼ全ての癌を対象とした網羅的な遺伝子発現解析等を実施し、既に多くの癌治療薬開発に適した標的タンパクを同定し

ております。また、近年それらの標的に対し、癌ワクチン、低分子医薬、抗体医薬、核酸医薬（siRNA医薬）の、より製品に近い創薬研究も積極的に展開し、既に、第Ⅱ／Ⅲ相臨床試験を実施中の新生血管阻害剤OTS102のほか、現在臨床試験を準備中の医薬品候補物質を複数有しております。

●基礎研究領域

創薬ターゲットの特定等を行う基礎研究領域においては、ヒト全遺伝子（約23,000遺伝子）の遺伝子発現パターンを網羅的に検索できるcDNAマイクロアレイのシステムにより大腸癌、胃癌、肝臓癌、非小細胞肺癌、小細胞肺癌、食道癌、前立腺癌、膵臓癌、乳癌、腎臓癌及び膀胱癌について発現解析が終了しております。これらの発現解析情報から癌で発現が高く正常臓器では発現の低い遺伝子を選択し、更に機能解析により、癌の発生の原因として機能していると特定した多数の遺伝子を分子標的治療候補遺伝子として同定しております。

●創薬研究領域

医薬品候補物質の同定及び最適化を行う創薬研究領域においては、医薬品の用途毎に、より製品に近い研究を積極的に展開しております。

癌ワクチンにつきましては、これまでに日本人及び欧米人に多く見られるHLA-A24及びA0201を中心に大腸癌、胃癌、肺癌、膀胱癌、腎臓癌、膵臓癌、乳癌及び肝癌を標的とした計27遺伝子を対象としたペプチドワクチンを既に同定しておりましたが、新たに肺癌1遺伝子、膵臓癌1遺伝子に対するペプチドワクチンを同定しました。また、日本またはアジア圏で広く分布の見られるA24及びA0201以外のHLAにも適用可能なペプチドワクチンの同定も引き続き進めております。現在、より多くの候補ペプチドの単離を目指し、乳癌、肝臓癌、膵癌、肺癌、腎臓癌及び大腸癌を標的としたペプチドワクチンのスクリーニングを実施しております。

低分子医薬につきましては、2種の癌特異的リン酸化酵素に関して、構造活性相関研究による多数の新規化合物合成を進めております。既に得られた高活性リード化合物につき、薬物動態特性も考慮したリード最適化作業を進め、in vivoでの薬効試験も開始しました。また、大規模化合物ライブラリのスクリーニングから得られた有望な高活性新規骨格化合物群についても、構造活性相関研究による新規化合物の合成を進めました。さらに、別の1種の癌特異的酵素タンパク質に関して、大規模化合物ライブラリのスクリーニングの結果得られた多様な高活性ヒット化合物群の中から、リード化合物獲得に向けた構造活性相関研究の対象とすべき構造骨格を選択し、新規化合物合成を開始しました。以上の他、3種の癌特異的酵素タンパク質に関して、特異的阻害剤獲得のため、大規模化合物ライブラリのスクリーニングによるヒット化合物探索を進めました。

抗体医薬につきましては、3分子に絞り込んだ治療標的となる癌特異

的抗原について、マウスモノクローナル抗体ならびにキメラ抗体の癌治療用抗体としての評価を行っております。1標的については、非臨床試験に入るべくGMPグレードの抗体作製中です。残りの2標的については、担癌マウスにおいて腫瘍部位への選択的な集積を呈する抗体のいくつかを放射性同位体で標識し、抗体を担癌マウスに投与することで、高い治療効果を呈しております。これらの抗体についても現在、創薬化に向けた非臨床試験の準備を進めております。また、有望なマウス抗体の候補に関しては、順次キメラ化作業を進行させており、更なる検討を行っております。

siRNA医薬につきましては、肺癌及び卵巣癌を標的とした創薬研究として、担癌マウスを用いた治療効果を評価すべく、標的遺伝子の再選定を行いました。創薬研究の候補としてさらに12分子を選抜後にin vitroにて再評価を行い、肺癌及び卵巣癌に限らず、抗腫瘍効果が強く幅広い癌種への応用が期待できる6分子を創薬化の第一候補として選定いたしました。

in vivoでの治療実験を行うべく、評価系の構築を行い現在、治療実験の準備を進めております。

このように、独創的な分子標的治療薬の創製を目指した創薬研究を、多岐にわたり展開しております。

●医薬・診断薬開発領域

医薬開発領域においては、扶桑薬品工業株式会社と提携しています癌の新生血管阻害剤OTS102は、膀胱癌に対する第Ⅱ／Ⅲ相臨床試験を行っております。OTS102については、平成18年12月に扶桑薬品工業株式会社との間で、新たな癌種への適応拡大についても提携いたしました。平成21年前半にも本適応の第Ⅱ相臨床試験を開始する予定となっております。平成19年12月に大塚製薬株式会社と以前より提携していた大腸癌ペプチドワクチンについて、医薬品としての開発に進むことで合意いたしました。現在、GMP下でのペプチド合成を実施しており、臨床試験を開始するために必要な非臨床試験の準備をしております。さらに、大塚製薬株式会社と平成20年1月に膀胱癌に対するペプチドワクチンの開発について提携が成立いたしました。現在、一部のペプチドについてはGMP下でのペプチド合成が終了し、臨床試験を開始するために必要な非臨床試験を開始いたしました。平成21年中に第Ⅰ相臨床試験を開始する予定となっております。膀胱癌及び食道癌、肺ならびに気管支及び頭頸部における扁平上皮癌を対象としたペプチドワクチンにつきましては、平成21年2月に塩野義製薬株式会社と提携が成立し、すでにGMP下でのペプチドの合成を終了し、現在、非臨床試験を実施中です。

診断薬開発においては、臨床の現場で使用しうる十分に特異性の高い診断薬が現在存在していない膵臓癌及び肺癌等の疾患に対し、提携先であります株式会社医学生物学研究所は、当社が見出したそれぞれの疾患

に重要な役割を持つ遺伝子を標的として、それらについてキット化を行い予備的臨床試験を開始し、可能な限り早期の承認、上市を目指し開発を進めております。

●OTS102について

当社は平成21年1月に新生血管阻害剤OTS102について第Ⅱ／Ⅲ相臨床試験の患者への投与を開始しております。OTS102はこれまでに他社にて開発されてきた新生血管阻害剤とはまったく異なる作用機序を利用したものです。腫瘍の血管新生に関わる重要な遺伝子であり、癌細胞の生存と成長に必要な新生血管の内皮細胞に高発現し、正常組織にはほとんど発現していないVascular Endothelial Growth Factor Receptor 2 (VEGFR2) というタンパクの一部を有効成分とする薬剤です。その投与により腫瘍への栄養を供給している新生血管内皮細胞に対する強い免疫反応が誘導され、抗腫瘍効果を示すことが動物実験で示されています。また、癌周辺にはVEGFR2を持つ新生血管が多数存在することが多い反面、通常の成熟化した正常血管はVEGFR2をほとんど持たないことから、OTS102は癌増殖に関与する血管に対してのみ働く、副作用の少ない薬剤になることが期待されております。

◎本社



■経営成績の推移(連結)

連結貸借対照表(要旨) (単位:千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<資産の部>		
流 動 資 産	8,464,473	8,489,632
固 定 資 産	586,657	618,528
有 形 固 定 資 産	363,644	365,087
無 形 固 定 資 産	134,545	160,164
投 資 そ の 他 の 資 産	88,466	93,276
資 産 合 計	9,051,130	9,108,161
<負債の部>		
流 動 負 債	390,882	474,826
固 定 負 債	15,223	141,899
負 債 合 計	406,105	616,725
<純資産の部>		
株 主 資 本	8,523,816	8,356,348
資 本 金	3,492,620	3,483,011
資 本 剰 余 金	6,457,842	6,448,233
利 益 剰 余 金	△1,426,645	△1,574,895
新 株 予 約 権	77,854	24,889
少 数 株 主 持 分	43,354	110,197
純 資 産 合 計	8,645,025	8,491,436
負 債 純 資 産 合 計	9,051,130	9,108,161

連結損益計算書(要旨) (単位:千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
事 業 収 益	3,327,575	1,972,835
研 究 開 発 費	3,009,590	2,049,253
販 売 費 及 び 一 般 管 理 費	290,816	309,007
営 業 利 益 (△は損失)	27,169	△385,426
営 業 外 収 益	92,325	71,144
経 常 利 益 (△は損失)	119,494	△314,281
特 別 利 益	204	107,040
特 別 損 失	36,068	21,054
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益 (△は損失)	83,631	△228,295
法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税	4,500	2,407
法 人 税 等 調 整 額	△2,275	1,659
少 数 株 主 損 失	66,843	30,288
当 期 純 利 益 (△は損失)	148,249	△202,073

連結キャッシュ・フロー計算書(要旨) (単位:千円)

科 目	当連結会計年度	前連結会計年度
	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
営 業 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△223,504	346,225
投 資 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	5,902,584	△2,440,363
財 務 活 動 に よ る キャ ッ シ ュ ・ フ ロ ー	△91,832	146,281
現 金 及 び 現 金 同 等 物 に 係 る 換 算 差 額	165	—
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 増 減 額 (△減少額)	5,587,412	△1,947,856
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 首 残 高	2,280,958	4,228,814
現 金 及 び 現 金 同 等 物 の 期 末 残 高	7,868,370	2,280,958

連結株主資本等変動計算書 (当連結会計年度(自平成20年4月1日 至平成21年3月31日) (単位:千円)

	株 主 資 本				新株予約権	少数株主持分	純資産合計
	資 本 金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計			
平成20年3月31日残高	3,483,011	6,448,233	△1,574,895	8,356,348	24,889	110,197	8,491,436
当連結会計年度中の変動額							
新株の発行(新株予約権の行使)	9,609	9,609		19,218			19,218
当期純利益			148,249	148,249			148,249
株主資本以外の項目の 当連結会計年度中の変動額(純額)				—	52,964	△66,843	△13,878
当連結会計年度中の変動額合計	9,609	9,609	148,249	167,468	52,964	△66,843	153,589
平成21年3月31日残高	3,492,620	6,457,842	△1,426,645	8,523,816	77,854	43,354	8,645,025

■ 経営成績の推移 (個別)

貸借対照表 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<資産の部>		
流動資産	8,391,386	8,260,349
固定資産	658,541	701,193
有形固定資産	336,006	346,713
無形固定資産	134,381	159,942
投資その他の資産	188,153	194,537
資産合計	9,049,928	8,961,543
<負債の部>		
流動負債	383,357	467,145
固定負債	1,873	115,199
負債合計	385,231	582,344
<純資産の部>		
株主資本	8,586,843	8,354,309
資本金	3,492,620	3,483,011
資本剰余金	6,457,842	6,448,233
利益剰余金	△1,363,619	△1,576,935
新株予約権	77,854	24,889
純資産合計	8,664,697	8,379,198
負債純資産合計	9,049,928	8,961,543

損益計算書 (要旨)

(単位：千円)

科 目	当事業年度	前事業年度
	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
事業収益	3,327,575	1,972,835
研究開発費	2,879,529	1,927,944
販売費及び一般管理費	280,509	282,018
営業利益 (△は損失)	167,537	△237,128
営業外収益	83,577	53,526
経常利益 (△は損失)	251,114	△183,602
特別利益	204	107,040
特別損失	36,068	226,433
税引前当期純利益 (△は損失)	215,250	△302,994
法人税、住民税及び事業税	4,210	2,141
法人税等調整額	△2,275	1,659
当期純利益 (△は損失)	213,315	△306,795

株主資本等変動計算書

当事業年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)

(単位：千円)

	株 主 資 本						新株予約権	純資産合計	
	資 本 金	資本剰余金 資本準備金	利益剰余金			利益剰余金 合 計			株 主 資 本 合 計
			特別償却準備金	圧縮記帳準備金	繰越利益剰余金				
平成20年3月31日残高	3,483,011	6,448,233	6,469	5,272	△1,588,677	△1,576,935	8,354,309	24,889	8,379,198
当事業年度中の変動額									
新株の発行 (新株予約権の行使)	9,609	9,609				—	19,218		19,218
当期純利益					213,315	213,315	213,315		213,315
特別償却準備金の取崩し			△4,200		4,200	—	—		—
圧縮記帳準備金の取崩し				△1,336	1,336	—	—		—
株主資本以外の項目の 当事業年度中の変動額 (純額)						—	—	52,964	52,964
当事業年度中の変動額合計	9,609	9,609	△4,200	△1,336	218,853	213,315	232,534	52,964	285,498
平成21年3月31日残高	3,492,620	6,457,842	2,268	3,936	△1,369,824	△1,363,619	8,586,843	77,854	8,664,697

■会社概要／経営体制

■会社概要 (平成21年3月31日現在)

社名 オンコセラピー・サイエンス株式会社 (通称 OTS)
設立 平成13年4月
資本金 34億92百万円
代表者 代表取締役社長 富田 憲介
証券コード 4564
本社 〒213-0012
神奈川県川崎市高津区坂戸3-2-1
電話 044-820-8251 FAX 044-820-8252
従業員数 87名
取引銀行 住友信託銀行株式会社
株式会社三菱東京UFJ銀行
株式会社三井住友銀行
事業内容 癌関連遺伝子及びその遺伝子産物に関する情報並びに創薬候補物質の提供

■経営体制 (平成21年6月26日現在)

代表取締役社長 富田 憲介
代表取締役副社長 角田 卓也
取締役 山本 和男
取締役 山路 弘志
取締役 (社外取締役) 中村 祐輔
監査役 中鶴 修一
監査役 (社外監査役) 高木美也子
監査役 (社外監査役) 小峰 雄一

■ホームページのご紹介

最新のニュースリリースやIR資料などを掲載しております。
ぜひご覧ください。

<http://www.oncotherapy.co.jp/>



株式の状況 (平成21年3月31日現在)

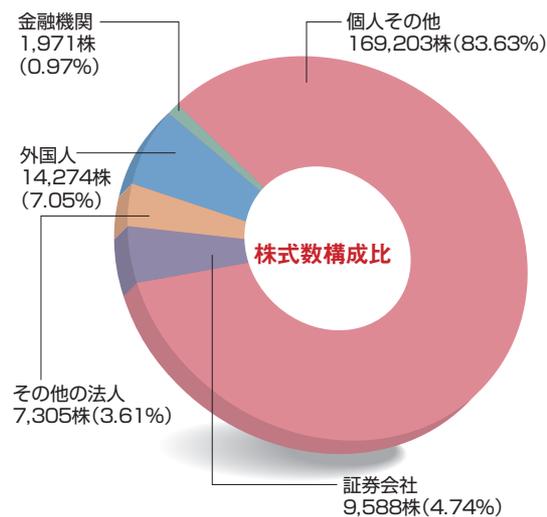
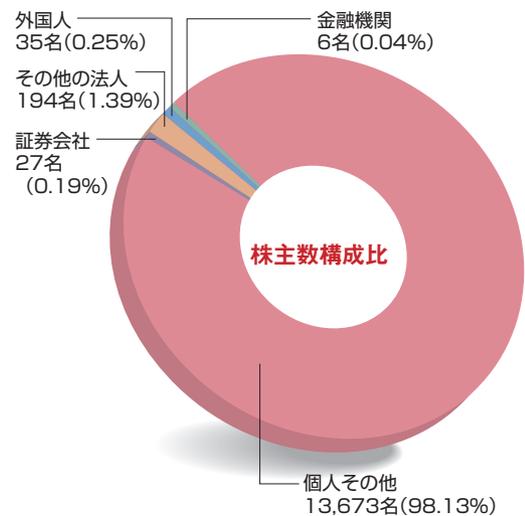
株式の状況

発行可能株式総数 770,000株
 発行済株式の総数 202,341株
 株主数 13,935名
 大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
中村 祐輔	21,750	10.75
BNY GCM CLIENT ACCOUNT JPRD AC ISG (FE-AC)	10,792	5.33
古川 洋一	10,500	5.19
荒川 博文	10,200	5.04
中鶴 修一	9,900	4.89
田原 秀晃	9,000	4.45
富田 憲介	7,350	3.63
大和証券エスエムビーシー(株)	6,229	3.08
(株)CSK-IS	4,022	1.99
江見 充	2,806	1.39

(注) 個人名の敬称は省略させていただきます。

株式分布状況





株式事務のご案内

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
 定時株主総会 毎年6月開催
 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
 期末配当金 毎年3月31日

【株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について】

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、下記の電話照会先にご連絡ください。

株主名簿管理人および
 特別口座の口座管理機関 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
 住友信託銀行株式会社
 株主名簿管理人 東京都中央区八重洲二丁目3番1号
 事務取扱場所 住友信託銀行株式会社 証券代行部
 (郵便物送付先) 〒183-8701

東京都府中市日綱町1番10

住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先) ☎ 0120-176-417

(インターネット) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
 ホームページURL

【特別口座について】

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である上記の住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

公告の方法 当社のホームページに掲載する。

<<http://www.oncotherapy.co.jp/>>

●本報告書に関するお問い合わせ先

オンコセラピー・サイエンス株式会社 管理本部

電話：044-820-8251

